

<p>研究成果</p> <p>3,000 字程度 (別紙添付可)</p>	<p>厚生労働省が発表した国民生活基礎調査 (2019) の概況によると, 我が国の子どもの 7 人に 1 人 (相対的貧困率は約 15.7%、子ども貧困率 13.5%) と言われ、日本社会での子どもの貧困が問題となっている。この子どもの貧困の背景には、様々なことがあげられる。昨年のサイド調査で、子どもの食選択が、世帯構成数・家族形態に影響があることを確認している。(沖縄大学地域研究 26, 2021)。</p> <p>子どもの健康を考える時、社会関係資本のような社会環境要因と子どもの QOL との関連性を明らかにすることは、子どもの健康を守るための地域支援のあり方を考えるうえで重要な情報源となり得る。</p> <p>そこで、沖縄県においても深刻な課題になっている若年層における実態からみた貧困との関係を見るための横断的調査を行った。同時に四国、中国、北陸の青年期にある若者を対象としても同様に調査を実施した。</p> <p>本研究では、子どもを養育する親と養育が必要な乳幼児期から学齡児・青年期に至るライフステージ別の相対的貧困を調べ、この子どもの食環境・社会環境と子どもの QOL との関連性の一端を明らかにし、子どもの食環境・食生活・社会環境における生活の質 (QOL) と親の社会関係資本との関連・実態を把握し、相対的貧困の特徴を抽出し、子どもの健康を守るための地域支援のあり方、方向性を示唆するものであった。</p> <p>研究報告は、地域研究所紀要と 2021 年第 9 回日本食育学会(6 月)および 2021 年第 69 回日本栄養改善学会(9 月)で発表予定である。</p> <p>利益相反に関する開示事項は含まない。</p>
--	--